

## 茂原市自治基本条例を考える市民の会 第1回会議 概要

開催日時	平成24年1月28日(土) 10時～
開催場所	茂原市役所102会議室
出席者	実行委員会委員35名(うち3名所用のため欠席) 事務局(田中市長、國代理事兼企画財政部長、麻生企画財政部次長、十枝企画政策課長、酒井企画財政部主幹、風戸企画政策課副主査、星野企画政策課主事、宮脇企画政策課主事)
会議次第	1.開会 2.議題 (1) 市長あいさつ (2) 委嘱状交付 (3) 委員自己紹介 (4) 自治基本条例を考える市民の会の概要について 3.閉会
会議要旨	2.議題 (1) 市長あいさつ 本日はご多様な中、皆様にお集まりいただきありがとうございます。 このたびは、「茂原市自治基本条例を考える市民の会」にご参加いただき、心から感謝を申し上げます。また、日頃より市政各般にわたってご支援とご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。 さて、本市では「市民参加のまちづくり」を進めるため、昨年「共生と共創のまちづくりもばら市民塾」を開催いたしましたところ、37名もの受講生の皆様にご参加くださり、本市の行政や議会のしくみ、また「協働」や「市民参画」など、まちづくりに関する基礎知識について、学び合いを通じて習得していただいたところです。 これを実践に移し、まちづくりの理念や基本的ルールを定めた「自治基本条例」について検討していただくため、「市民の会」委員を公募いたしましたところ、今日こうして35名の皆様にご参加いただき、大変力強く思っているところです。 昨年は大きな災害が相次ぎ、これまで以上に人と人との繋がり、いわゆる「絆」が重要視されるようになってきております。ボランティアやNPO、地域コミュニティなど、多様な担い手の皆様が、「自分たちの暮らしをさらによりよくするために」という想いで、積極的に参加する流れが起きている中で、本市においても市民の皆様と行政・議会、企業や団体の皆様が一致団結して手を繋ぎ合って、ともに作りあげていくという「市民参加のまちづくり」はこれから少子高齢化・人口減少を迎える本市にとって避けて通ることので

きない重要な課題の一つであると認識しております。4年前の選挙において私もマニフェストに掲げさせていただきました。

委員の皆様方は、さまざまな分野でご活躍され、豊富な経験と知識をお持ちの方々と伺っております。自治基本条例につきまして、貴重なご意見、ご提言をお寄せいただき、行政・市民・企業等が一体となって「市民参加のまちづくり」を進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上簡単ですが、私からのあいさつと代えさせていただきます。本日はご苦勞さまでございます。

## (2)委嘱状交付

市長から各委員へ委嘱状を交付

## (3)委員自己紹介

各委員から自己紹介、事務局から出席者紹介

## (4)自治基本条例を考える市民の会の概要について

事務局から資料に基づき説明

### 【主な質疑応答】

・いただいた開催案内ではアドバイザーの関谷先生の基調講演があるとのことだったが、およそいつごろになるのか（関谷先生がご多忙なため、日程がまだ調整できていない。今後、連絡がつき次第、関谷先生のお話を聞く機会を設けたい）

・やむを得ず欠席した場合、その回の会議録は欠席者に示されるか（会議録は毎回作成し、ホームページ等で公表したい。メーリングリストでお送りすることも考えている。欠席する委員がその日の案件に対して意見を表明したい場合は、事前に事務局に連絡をいただき、代わりに発表させていただきたい）

・会議の議題、概要は前もって示されるか（会議の時間は限られているので、有効な時間となるように、資料については前もってお送りし、事前に目を通してから会議に臨んでいただきたい）

・ヒアリングを実施するということが、委員会を立ち上げてその委員会で実施するのか（どういうやり方をするかも含めて、委員の皆さんの間で話し合っていただきたい。どの階層に対して、どういう場所で聞きに行くか。中学生にアンケートしたという委員の発言があったが、大変有効な手法であると思う。ターゲットを絞ってどのような意見を聞きに行くか、委員間でまちづくりのイメージを共有する中でおのずと浮かびあがってくると思う）

・委員の地域性が偏っているような気がするが、それも踏まえた自治基本条例なので、茂原市全域の意見を吸い上げる形を取らなくてはいけないと思う。職種や年齢など、いろいろなパターンの意見を吸い上げる必要がある（ヒアリングを実施しようという段階になった場合に、そのような意見をいただいて、皆さんでどういうところに向いて行こうかと話し合っていただきたい）

・時期尚早かもしれないが、自治基本条例にはシンプルなものメニュー型があると聞いている。1年でまとまるということは、そのどちらかにするのかお考えは。それとも委員皆さんで話し合って決めるということか（自治基本条例の分類を研究している方も当然いるが、事務局として自治基本条例のどのパターンにしましょうと提案することはない。市民の会の会議の中でどのような条項を含めたらよいか話し合っていたくことで、おのずとその形が決まってくるものと考えている）

・根本的なことだが、自治基本条例がないと誰が困るのか。市役所が困るのか、議会が困るのか、市民が困るのか（端的に申し上げると、自治基本条例がなくても行政、まちづくりは動く。しかし、今後の少子高齢化、人口減少社会を考えたときに、どんどん担い手が減っていく。これまで高度経済成長期に手広く行政が担ってきた部分が、今までの仕組みでは成り立たなくなるものが出てくる。そのような部分を、市民の皆さんや企業、団体も含めて、担い手の方たちがどういう分担で担っていただくかを定めるものが自治基本条例である。今までの地方行政は地方自治法にのっとなって全国一律に行われていた。茂原市独自、茂原市ならではのルールをつくらなくてはいけないのではないかとということで、皆様にお集まりいただいた）

・私は先ほどから話を聞いていると、ルールをつくって市民が守る、上から目線であると感じた。私は皆さんと違うかもしれないが、自治基本条例はあくまでも議会、執行部が市民のために適正な行動をしているかどうかを見守るための市民活動であると思っている。単に予算がないからボランティア的に市民に早い話は丸投げするということではまずいと思う。基本的に条例をつくって終わり、市民の首を絞めるようなルールをつくって運営するような気がする。これからいろいろ勉強したいが、今のところ行政側の発言を聞いていてそう感じた（単に今まで行政がやっていた仕事を市民の皆さんに予算がないからと言って丸投げするのでは、全く何の意味もない。NPOやボランティアの方たちが何のために自分の仕事をするかという、そこにお金のためではなくやりがいや生きがいを求めていると思う。茂原市のまちづくりを市民の皆さんがやりがいや誇りを持って、自分のこと、自分の関心事として進めていただく必要がある。逆にそう進めていただかないと、今後の地方自治は成り立たないのではないかとこの危機感を持っており、皆さんも共通だと思ふ。そういう危機感を持ち寄って、どういうまちづくりをしていこうかと話し合っていたくのがこの市民の会である。いまいただいたご意見も踏まえて、どういうまちづくりをしていくか話し合っていたくきたい）

・自治基本条例をつくる場合、たたき台がないと意見交換できないと思う。市民の意見を聞いてからたたき台をつくるのか、市民の会の会議の場でつくるのか。意見を言う場合、何かがないと考えられない。それぞれ漠然としたものは持っていると思うが、何か考える材料があれば意見交換できるのではないかと（まずは考える材料づくりを皆さんでしていただきたい。そのために

は、現状を正確に把握する必要がある。皆さんはいろいろなバックボーンをお持ちになりながらこの会議に参加しているが、まちづくりに関してどのような意見をお持ちなのか持ち寄っていただきたい。その中から、茂原市がどう進んでいかななくてはならないかというイメージが浮かび上がってくると思う。少子高齢化、今までのシステムでは成り立たなくなるというのは皆さん全員がお持ちの共通の危機感だと思うが、それが具体的にどうなのかを突き詰めて話し合っていただく必要がある。そのイメージが出てきた時点で、どういう条例をつくれればこれからのまちづくりが進んでいくのか、持続可能な茂原というまちを次の子どもたち・孫たちの世代に渡していくためにはどういうルールでどういうまちづくりを進めていかななくてはならないか、おのずと浮かびあがってくるのではないかと考えている。まずはそこから話し合っていたいただきたい)

- ・市民の意見を聞いてからたたき台をつくるのか、ここでたたき台をつくってから市民の意見を聞くのか（スケジュール案で第1期PI、第2期PIという説明をしたが、事務局でのイメージとしては内容を検討した中で最初に市民の皆さんの意見を広く聴くPIが第1期。それをフィードバックして、提言書の素案ができた時点でもう一度市民の皆さんに投げかけていただく形を想定している。これはあくまでも事務局での案なので、皆さんで話し合いを進める中で、もっとこういう市民の意見の聴き方をしなければならないのではないかなった場合は、その都度意見を聞いていただくことになろうかと思う。いま提示しているのは事務局の案でしかないので、どう進めていくかは皆さんの話し合いによる)

- ・去年の関谷先生の話聞くまでは、私もなぜこの条例が必要なのかという考えを持っていた。委員に参加する際に、それも含めて勉強したいとコメントを出した。基本的には市民が自治基本条例をつくるのであるから、議会や市役所がそれに賛成するかどうかは全く未定だと思う。現実に市議会議員の中になぜそれをつくるのかという話が出ている。この条例で市民が犠牲になるようなことは、この委員会で決められるはずがないと思っている。いちばん大事なこと、なぜ必要なのかということ、この市民の会の中で最初に検討してもいいと思う。本当に必要だからこそ、これをみんなで検討しましょうという合意が必要。そこを外して、条例案を検討するということになる、進行を考えた場合にも問題が出てくるのではないかと思う。極力多くの方が「この条例が必要だ」ということを共有することが必要。次回の会議ではそれを含めて皆さんと一緒に話をするかどうかという提案をしたい。

- ・先ほどたたき台が必要という意見があったが、どういう内容を盛り込むか分かっている方には頭の中にあるのかもしれないが、そういう意味ですでに自治基本条例をつくっている自治体の例について、最終的にはこういうものになるというある程度のイメージを描くためにも、そのような資料があったほうがいいのか。あるいはそんな前例にとらわれていたのでは茂原

の特殊性、本当に必要なことは盛り込めないという考えもあるかもしれないが。皆さんがどちらに考えるのかは別として、こんな内容が盛り込まれているということを示すのも手だと思うが（全国で 200 市あり、いろいろな条例がある。どのようなパターンがあるか比較分析している研究家の方もいる。それをこちらで提示してしまうのが一つの枠にはめてしまうということもあるし、まずは必要性があるかという議論もあるので、次回第 2 回ではなぜ必要なかという点から話し合ってください、なおかつ必要であれば他市の例を事務局側で調査研究したい。逆に、皆さんがいろいろな市でこのような自治基本条例があり、こういう項目が茂原市にも使えるのではないかとという部品探しをしていただいてもいいかと思う）

- ・行政側としてはインターネットで調べれば出てくるのでつかんでいるということか（いろいろな先進市の視察も行ったし、研究している方の資料も取り寄せている。出すことはやぶさかではない）

- ・インターネットで調べれば自治基本条例を制定済の市町村が内容も含めて全部見られるということか（見られると思う）

- ・各自で勉強すればいいということか（そこまでは申し上げられないが。行政側が事例を出していくと、行政側のつくりたい方向に誘導していくのではないかとすることも心配している。ややもすると冷たい言い方になっているかもしれないが、必要性の議論は確かに必要になってくる。いま自治基本条例はルールづくりであるという一般的な話をしているが、どんなものというのは皆さんもわからないと思う。私どもが一つのたたき台を出すのであれば、ユニークな自治基本条例を 3 つくらい提示するのはいいかもしれない。後は調べていただければ 200 の事例があるので、皆さんから出していただくのも一つの考え方である。必要性の議論もあり、ファシリテーション的な学び合いもしていただくということでスタートしていくのもいかがか）

- ・提出されたものにとらわれないという前提で、ユニークな事例を 3 つ提示するのもいいのではないかと（事例について調べ、イメージづくりの一助のとなるように提示したい）

- ・関連することだが、「市民の会で考えること」ということで、茂原市基本構想にうたわれた自分たちの暮らすもばらの人・自然・文化について自ら考え、ともにつくりあげていくという「共生と共創のまちづくり」を進めるとのことだが、ある議員が「我々はもうやってきた。市民の会がなくてもできるんだ。それでもあえてつくるのか」という言い方をしたのを覚えている。私は自治会の役員を務めていて市の窓口に行くが、お金がかからないところのサービスはものすごくいい。お金がかかることをお願いすると、とたんに職員 of 皆さんは思考がストップする。全然話にならない。そういうことで今回参加することになったが、なぜこんなに赤字財政になったのか。そのことを市の皆さんから話してもらわないといけない。話し合いの結果、自治基本条例をつくりましょうということになれば、ルートとしてあると思う。上席に座

っている皆さんは赤字をつくる過程で市政に携わってきた人たちで、出世していい思いをしたこともあるだろうが、市民はいろいろお願いするにもお願いできないということもある。そう考えると、市民の皆さんどうぞこの議論をやってください、私は高見で見物しています、できあがったものを市の幹部連中が良いの悪いのと言う。極端な言い方をするとそうになってしまう。市の皆さんが今までやってきて、この閉塞感が茂原市全体に広がっている、人口が減ってきているその原因について、市政でどのようなことをやってきたからこうなってしまったのか、大赤字をつくった経過、当時の上司たちが決裁して、こういうことをやっていたら大赤字になるかもしれないと思っていたのかもしれないが、それを出していただき、その上で市民の会が動き出すのではないかと思う。いきなりよその基本条例をキャッチアップするはいかがなものか。市の職員の皆さんも今まで市政をやってきて、国からこういうことをやってくれと言われても何も分からないからモデル地区に行って、それをキャッチアップしてきたのが習性ではないかと思う。そういう習性を避けるためにも、いきなり見本を持ってくるというのはやめてもらいたい。まず市の状態を示して、それから見本を示してもらいたい（これだけ多くの皆さんがいるとそれぞれいろいろな意見をお持ちであり、入り方は非常に難しいと思う。確かに今おっしゃられたように、市民塾からご参加いただいた方には学び合いの中で少しやってきたが、初めての方もいらっしゃるの、市の基本構想・基本計画、財政状況をやはりきちんとお話しして、それからいろいろ進んでいって皆さんが課題抽出をする。その前段としての行政情報の提出をさせていただくのが導入部分としていいのかもしれない。たたき台として出すというのは、よその条例の部分部分をくっつけてつくるということはしたくないので、こんなユニークなものがあるということを説明しないで持っていていただくだけでもよいかと思って回答した。イメージがわからないということであれば脇に置いておく資料として持っていていただくということで考えた。市民の会が考えていく際の材料として、市政に関することは説明させていただきたい)

・私どもの要望は、人の働き、その結果として市民の幸せにつながると考えている。市の職員の動き、働きというところに着目していきたい。その意味で、行政の皆さんも反省点を暴露してほしい。そういう中で見本を示すのならば理解できる。行政のシステムを示して、よそのモデルを示すのはいかがなものかと考えている。

・これからどんなことを話すのかがわかっていないから、みんなこのような話になるのではないか。私がいま一番切実に考えているのは、茂原の高齢社会をどう救ってくれるのかという問題、子どもをどう育てていくのかという問題である。私はボランティアをやっているが、こういう機会を設けてもらえるのが私は幸いだと思っている。私たち市民がどのようなことを要求しているかということ条例にするということによろしいのではないか。難しい

話になってしまうのでこのような議論になってしまうのではないかと思います。もっと私たち市民の意見をどんどん言うことがこの話し合いではないかと思う。

- ・いろいろなことを集約するためにいろいろなプログラムを組んでいただいていることがとてもよく分かる。私は市民塾に参加していた時から思っていたが、市の方が音頭を取っていただいたからこそこの会があるということは分かる。そういう意味でありがたいが、この会の趣旨からして、できるだけ早い時期に市の方ではなくこの中の誰かが前方に座り、進行するようにするとちょっと風向きが違うのではないかと思う

- ・皆さんの中でこのような議論をしていただく。それに対してこのような資料が必要だから事務局に出してほしいと要望していただく。それを皆さんが咀嚼しながら考えて使っていくというのが一番の理想。それが市民の会である。行政がこの場所で議事進行するのではなく、皆さんが進行していく。自治基本条例をつくっていただくにはそれが一番だと思う。ファシリテーション学習会のような形で入っていき、皆さんの中で中心になっていただく方をお願いするというのが最初に事務局で説明したイメージである。皆さんの合意がいただければ、私どもは会議の運営を側面支援するスタンス。行政対市民にはならない。市民の皆さんで考えていただき、考え方をつくっていただく。それを市長に提言していただき、行政側とのマッチングを行う。私どもも行政を担う者として、それについて意見を表明する機会をいただく。そのような流れがベストではないかと考えている

- ・財政事情が悪化したという話があったが、それは市民が選んだ市議会議員が市の案を承認したからだ。市民が自分で自分の首を絞めている。議員がちゃんと市の案をチェックしていれば被害は少なかったはず。だからそれを「なれ合い」と申し上げた。行政と議会がなれ合いになっているから、その責任を市民に持ってきたという考え方が明確になっている。私は市役所の人が悪いと思っていない。市の案を我々の代表がちゃんとチェックしないで賛成したからいけない。どこの地方に行っても同じ。だから、私が参考にしているのは福島県の矢祭町。市議会も夜間に開いてみんなが見れるようにすればいい。そんなこともしないで、市議会議員を変えようとしているからいけない。

- ・このような席であれば、名前と発言が一致しない。名前を言ってからご自分の意見を言っていただくようにすれば、顔とお考えが一致する。市民塾のようにグループに分かれたときは名札を下げているが、なかなか顔とお考えが一致しない。数か月も経てば名前と顔が一致するだろうから、この数カ月の間のことと思って提案した（このように皆さん同士で議論していただくのが理想。次回以降は市政に関する情報の提供とファシリテーション＝合意形成手法に入っていく、そこで議論を深めていただくということよろしいか。）

(3) その他